

同窓会は鳥羽小を応援しています

入学式



南極教室

鳥羽っ子の幸せと夢の実現のために

同窓会報

平成26年3月
第23号
鳥羽小学校同窓会
印刷：(有)平田印刷



新入会員紹介

〓平成25年度卒業生〓





ご挨拶

同窓会長 岡 本 嘉 樹

同窓会会員の皆様にはご健甧で新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

近年特に異常気象に伴う災害が多くなっておりますが、昨年には九月一五日から一六日にかけて台風一八号により地区内海士坂を中心には大きな爪痕を残しました。地元民はもとより鳥羽地区出身者で地区外へ出ておられる方にとつても大変心配な出来事であつたと思います。

しかしながら町をはじめとする関係機関のご努力と地区の皆さんの頑張りさらに地区内外からの沢山のボランティアの方々の協力もあつて復旧が進んでおります。

このボランティアの方々の力は平成二三年の東日本大震災に於いても大いに発揮されたところですが、世界的に見ても災害或いは紛争地域等で活躍されている事例が沢山報告されています。

私はこの動きの源流はやはり生まれ育つた土地であり、人であり、家庭であり、学校ではないかと思つています。

同窓会長の役職で地域・学校協議会に参加させて戴いております

が、ここでは『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の部会に分けて先生方とPTAの間で評価と検証が行われおります。

また同事に近年鳥羽小学校では六、五年生が一、二年生に対してチームを組んで学校内の様々な活動においてリードとホローを行っていることはPTAの方々はご存じだと思ひますが、こういった活動を通して人と人の絆を深め、ボランティア活動の更なる発揮等につながつて行けば素晴らしいと思つています。

平成二五年現在、小学校の数は全国では二一、一三校、福井県では二〇七校、若狭町には一一校ありますが、このうち同窓会の無いところはかなりあると聞いています。ありがたいことに鳥羽小学校にはあります。

鳥羽小学校同窓会は鳥羽小学校のもつとも身近でもつとも大きい応援団だと思つております。

この二年間同窓会長という大役を務めさせて戴きましたが、各理事さんをはじめ役員の皆さん、学長、先生方その他関係各位のご理解とご支援を戴きましてどうに

か努めさせて戴きました。
今後共皆様のご理解ご協力によりまして鳥羽小学校と鳥羽小学校同窓会がますます発展充実してい

きますよう願つております。
ありがとうございます。
(三田 在住)



ご挨拶

校長 高 橋 繁 応

鳥羽小学校同窓会会員の皆様方におかれましては、日々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

昨年四月に本校の校長を務めさせていただくことになり、はや一年が過ぎようとしております。この間、保護者の皆様方はもとより、同窓会会員の皆様初め、地区内の多くの方々に多大なお世話になりましたことに對しまして、厚く御礼申し上げます。

私は、本校の昭和四二年度の卒業生ですが、こういう形で鳥羽小学校の校長としてつとめさせていただくことになった縁を不思議に思つたとともにその重責を感じております。今でも小学校当時のことをよく思い出すが、当時はこのような立場で鳥羽小にいる自分を想像したことさえありませんでした。大学を卒業して教師になつて四年目のときに本校に勤め

させていただくことになり、それから六年間勤務させていただきしました。今から思えば当時の私は随分荒削りのいいかげんな教師だつたと思いますが、その当時の教え子達が立派に育ち、本校の保護者として親しみをもって学校に協力してくれまふ。誠にありがたいことで冥利につきません。

さて、鳥羽小学校の同窓会では例年、年度末に同窓会報が発刊されております。この度校長としての立場で原稿を書かせていただくことになり、あらためて過去の会報の綴りを開いてみました。

古くは大正時代からの冊子も残つていますが、このような形で毎年発刊されるようになったのは最近になつてからのようです。当初は一枚物の裏表印刷された簡単なものだったようですが、型式が変わつて会報七号あたりから現在の様な冊子の型式になり、最近で

は毎年カラーページも含まれ数ページに及ぶ立派な会報が出来上がっています。過去の会報に寄稿された方々の文章を読ませていただくうちに、それぞれの方々のふるさとや母校への思いが伝わってきます。同窓会の組織自体が存在しない学校もありますが、本校には伝統的な同窓会という組織が存在し、学校に対してしましても物心両面で多大のご支援を賜っております。この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。経済情勢が混沌とする中で学校予算も年々削減され、同窓会からのご支援は大変ありがたい存在です。次代の鳥羽地区を担っていく母校の後輩達のために今後ともご支援ご協力をお願いいたします。

自分が育った地域や母校に愛着と感謝の気持ちを持つことは大切なことだと思いますし、裏を返せば母校での思い出はある意味自らの心の支えになっている部分もあるのではないのでしょうか。各位の寄稿されました文章を読ませていただくとどの方の文章にも幼少期を過ごした鳥羽地区や鳥羽小学校での思い出が、それぞれの方々の人生の礎となっているように感じられます。

羽小学校のホームページを閲覧いただけるようになりました。検索サイトで『若狭町立鳥羽小学校』と入力していただければすぐに見つかると思います。鳥羽小学校のホームページの『鳥羽っ子日記』のコーナーでは子ども達の日々の活動の様子を写真入りで紹介しており、いつでも見ていただくことができます。今後はこの同窓会報も学校のホームページから見えていただけるような形にして、遠くの同窓生の方々にも手軽に読んでいただければと考えています。

最後になりましたが会員各位のご健勝を祈念し、ご挨拶に代えさせていただきます。



故郷への思い描く夢



岡 本 千代子

(昭和29年度卒 旧姓 武田)

一八歳で若狭高校を卒業と同時に離れた故郷が、古希を過ぎたこの頃、次第に近く感じられることは不思議です。そのことは昭和二十九年鳥羽小学校卒業生で毎年集まるクラス会「二九会」のお陰だと思っております。同級生に会う回数が多くなれば自然と小学生時代のありのままの自分に戻ってしまふことが可笑しく感じられます。空気、水、食べ物等、私を育ててくれた地球環境が何の抵抗も無く、心地よく受け入れてくれます。

子どもたちが小さい頃は、年に一回だけ夏休みに一ヶ月程度帰省していましたが、中学生になると、ほとんど私だけ冠婚葬祭か、お盆のお墓参りに帰省する程度になつてしまいました。そんな状態が長く続いているうちに、少し田舎が遠くなった感じがしていました。又、その頃は、我が家から電車で三〇分の距離にある成田空港から飛んでいく外国が、交通の不便な田舎へ帰るよりも近く感じられていたのも事実です。六三歳まで勤めていた日々は忙しくて自分の原点を忘れ、故郷の大切さにも気が付きませんでした。田舎へ帰る回

数も減ってきた時「二九会」と名付けられたクラス会で、一泊二日の旅行に誘われました。その後毎年旅行の計画をしていただく事が決まり、出来る限り出席しています。鳥羽在住のクラスの人たちの努力と団結で、再び私の気持ちに田舎へ向くことになりました。

そんな時、三・一一の震災が発生し、直ぐに娘や孫達と四〇日間実家に避難しましたが、娘は逃げるところは麻生野しかないという咄嗟に思いついたようです。私はその頃はクラス会が楽しいとか田舎の話話を度々していたので抵抗無く行動したのだと思います。福島から私の住んでいる千葉県鎌ヶ谷市まで二〇〇km以上離れています。が、人々の放射能に対しての恐怖心は震度六の地震よりも凄まじいものでした。その日のうちに全てのスーパーや商店からは、飲料水や食料品は売り切れて無くなってしまう生活が出来ませんでした。幼子を抱えている娘達は本当に困っていました。その後、避難先の実家から我が家へ帰ってきた時、近所の友人に「どうして原発銀座の福井へ避難したの？」と問

われた時には驚きでした。その時初めて若狭地方は全国で一番原発が多く設置されている事を知り恐ろしくなりました。それと同時にマスコミが原発の報道を毎日行うので若狭地方が有名になってしまい戸惑いました。

そうだ！若狭地方の発展のために全国的に知れ渡った原発の悪いイメージを払拭しよう。とにかく、マイナスの知名度でも逆手に取ってプラスに転じさせることが可能です。高速道路の

インターチェンジもできます。鳥羽地区から発信しませんか？キャッチフレーズを作って「若狭の国」を宣伝しましょう。「日本中で人に一番優しい若狭町」や「雪も少なく太平洋に一番近い日本海側の町、若狭」等々。鳥羽地区の住民の努力で若狭町が発展したのだと後世に伝えられ、この平和で美しい故郷が永遠に続くように願っています。

(千葉県鎌ヶ谷市 在住)



小学校時代と

鳥羽谷の思い出

森 下 良 器

(昭和33年度卒)

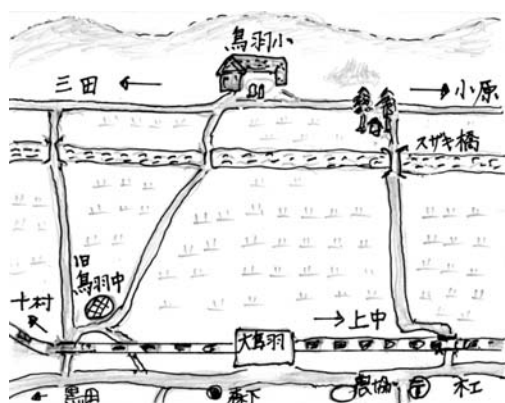
珍しい人から電話があった。おふくろの実家の檜鼻ふじよさんからで今度、同窓会誌を発行するので原稿をお願いしますとの事。あまり文章作りに自信がないが引き受けることにした。学校より最近の同窓会誌を送って頂いた。いま、自分の手元にある同窓会誌は昭和五五年ころ発刊の会報二四号と記してあり表紙には丸の中に羽を広げた不思議な鳥が描かれた鳥羽小学校の校章でかすかに覚えていたような気がする。それにしてもこの会報の記録は明治の時代に小学

校が出来てから鳥羽谷で生まれた人が小学校を卒業するまですべて記録されていた。一四年前に亡くなった親父、そして自分より先に亡くなってしまった兄、弟の卒業年代と同級生の名前も記録されている。まだ、元氣であった父が兄が記念に送ってくれた物と思う。あれから数十年、今にして思えば色々な事が思い出される。今は年に一度程お袋の顔を見に敦賀より小浜線に乗り帰郷する事を楽しみにしているが十村のトンネルを抜けると無悪、三田の集落そして

左手に小学校、大鳥羽駅までの旧鳥羽中学校は保育園になっている。そうだが、色々な思い出がこみ上げてくる瞬間である。

自分の小さいころはほとんど覚えていないし、あまり記録の写真もない。小学一年生のころといってもあまり記憶にないが、担任の女の先生ははつきりとしながしっかりした大きな人のような記憶がある。勉強机の上を飛び回り元氣いっぱいであったとのこと。あのころは給食はまだなく弁当を持参して登校したが、いつも自分の弁当箱はペコペコであり兄とは少し違っていたとのこと。帰り道で弁当を包んだ風呂敷を振りかざして喧嘩でもしていたのかもしれない。

これは、自分の記憶でないが少し大きくなってから聞いた話であ



る。二年、三年は女先生であり若くてかわいい先生のような記憶があるがあまり詳しく覚えていない。そして四年生になったたら田鳥から強い男先生が来るとの事、先生の名前は高橋宗一先生である。また、学年の同級生も分校生徒も一緒に大勢の学級とのことであった。総勢五三名で一学級、今では考えられないことである。

色々なことを事細かく書ききれないが、四年、五年、六年と自分なりに成長もして行つたのだから色々な事を思い出す。遠足の事、臨海学校、修学旅行、運動会、体育の時間、給食、苦手の勉強など。

あのころの時代、昭和三三年、少しづつ豊かになっていく気配があったが今から思えば自然の恵みを子どもなりに工夫して楽しんでいたように思う。楽しい思い出がある。先生と卒業記念に生徒全員で鳥羽の谷を回ってみようとのこと、学校から小原、南、山内、持田、長江、大鳥羽、黒田、麻生野、海土坂、三生野、無悪、三田と、一二集落をみんな確認して回ったことを覚えている。先生の実家、持田の家も拝見した。同級生の家と集落、今から思えば、貴重な体験であったし同級生の皆さんの顔が浮かんでくる。どうしてだろうか。

登校は遠い所では海土坂の人は四km位になるのか、雨の日も暑い日も徒歩でよく通つたと感心す

る。自分は大鳥羽駅に近くでいつも正面に小学校を見て育ったので学校には小さいころ若狭屋と郵便局の付近で皆が集まるのを待って一緒に行った記憶があり、道中で色々な自然観察と集落の行事、学校のことを話し合っていたのである。その中で、今は形にないと思うが小学校の前を流れる鳥羽の川で大鳥羽木工そばの踏切を渡り小原の集落に向け進んでいくとその川に大きな橋が架かっており袂に大きな木とお堂があった記憶がある。お堂の歴史は知らないがいつもその前を通り学校に通っていた。たまにお供えもあり何か鳥羽谷のお守りとなっていたのだらう。この付近をスザキ橋と呼んでいた記憶がある。今から思えば四〇数年前の話になりますが懐かしく思い出される。

大鳥羽駅の方に向かって歩き地下道をくぐりまっすぐ歩くと急に鳥羽小学校に出くわした。大きな立派な学校だ。門柱に覚えがあった。自分たちの時は木造校舎でコの字型であったが、この門柱はいつまでも小学校のシンボルであってほしいと思いがけられにされた。この機会を得て幼かった自分と鳥羽谷の風景、懐かしい人々を想い起こす事が出来たことを有難く思う。

鳥羽から離れての時間の方が長くなつたが今は無事に東京でのサラリーマン生活を終え、孫の成長を楽しみつつ地域の環境問題、趣味の山歩き、鍛金での物づくり、そして裏庭のミニ菜園で収穫を楽しみつつ日々を送っている。そしてこれからも鳥羽谷を忘れることなく前進して行きたいと思う。

ふるさとの鳥羽谷を守っておられる同級生の皆さん、先輩、後輩の方々、お元気でお暮らしくたさい。
(静岡県伊東市 在住)



感激の再会、そして

奥田 満夫

(昭和37年度卒)

一〇年位前からだっただろうが、若狭町井ノ口にお住いの恩師

高橋宗一先生との賀状のやり取りを通じて、先生との再会を約束し

ながらも、ずるずると先延ばししていた。

敦賀に住んでいた私の両親はそのころ既に亡く、北陸の冬を過ごすのには体力的に厳しくなった義理の両親を、二〇〇四年の春に横浜市内の老人ホームに移り住まわせていた。そして、妻と二人で毎週末ホームに見舞うようになり、田舎に帰る機会をすっかり失っていた。

そんな日々を過ごすある日、妻に病気が見つかり、入院手術、転院、退院と慌ただしく過ごすうちに、また恩師との約束を果たせないまま時間だけが過ぎて行つた。

気が付けば、二〇一〇年四月末、私の定年退職の日になっていた。その夜、無事に定年の日を迎えられることに感謝し、これから先のことをぼんやりと思ひ巡らしているところに、一本の電話があった。

「奥田君？ 谷口です。覚えている？」「えっ……」、同級生からの電話だったが、それを理解するには少々時間が掛かった。この時、私は四七年間も同級生の間で行方不明者となっていたことを思い知らされたのであった。

鳥羽小学校に転校してきた直後のことや一緒に学んだことは、何一つ覚えていないが、京都へのバス修学旅行で、岡崎動物園で遊び、二条城の鶯張りを歩いたこと、デパートで初めて買って飲んだコカコーラのことは、はっきりと覚えて

ている。鼓笛隊では大太鼓をやったことや、夏休みに臨海学校に行つたこと、前に通っていた小学校と野球の交流試合が開かれたことなどなど。思い起こせば、いろんな事が走馬灯のように浮かんで消えていく。そのどれもが楽しかった思い出となっている。なのに、どうして同級生との音信を途絶えさせてしまったのか？

卒業後は上中中学校に一年通い、三月末には父の定年退職に合わせ、両親の故郷敦賀に引っ越した。当時の私は、四度目の転校生





として新しい学校・学友に慣れようと必死だったのかもしれない。こんな私を忘れずに、探し出してくれた友に、申し訳ない思いと感謝の念で胸が熱くなった。

友によると、同窓生で四月に行った還暦厄除け伊勢参りのお土産を持って、地元組が恩師を訪ねたとき、恩師より私の連絡先を教わったとのこと。

その後、不参加の私にも、高橋先生のお言葉入りの伊勢参り旅行の報告書が送られてきた。懐かしい恩師は、お元気そうで何よりで

あるが、再会の約束を果たしていないことに気付く。直ぐに伺わねばと思うが、今度は私が網膜剥離になり、入院手術、またもや延期せざるを得なかった。

約半世紀振りの恩師や同級生との再会が実現したのはその年の秋。地元組が企画してくれた歓迎同窓会の日だった。

四十七年振りに訪れた大鳥羽。記憶に残る駅舎と私が住んでいた官舎、駅前ロータリーとザリガニを釣った小さな池、駅前に在った同級生宇田春雄君の実家（旅館）。そこは、すっかり風景が変わり当時の面影は見当たらない。少々残念な気持ちもあるが、昔と変わっていない同級生が居ることに安堵する。

同窓会では、伊勢参りのスナップ写真だけでは一致しなかった友の名前と顔が、少しずつ重なり合って、四十七年間の溝が徐々に埋められてくる。そして、小学生のころの時間と友情が、昨日のことのように蘇える。

恩師や同級生との感激の再会を契機に、私はまた高橋学級の一生徒として還ってきた。学びの場は学外となるが、これからも恩師や同級生と一緒にいろいろと楽しく学んでいけたらと願う今日この頃である。（神奈川県厚木市 在住）



ふるさと鳥羽谷

宮田 幸一

（昭和38年度卒）

私は、鳥羽小学校を卒業し、中学、高校、そして地元の農協に就職しました。早いもので小学校を卒業してから半世紀余りが経ちました。鳥羽谷で生まれ、一度も鳥羽から離れることなく現在にいたっています。一生涯「とぼもん」です。鳥羽谷が時代とともに移り変わってきた様子を感じながら暮らし話をさせていただきます。

春には草木が茂り、水田には緑のじゅうたん。夏には蟬の音が響き、太陽がサンサンと照りつける。秋になると稲穂がたわわに実り、山々では紅葉が色づく。そして、あたり一面銀世界になる冬。そんな自然豊かな鳥羽谷の野山をフィールドに駆け回っていた、いがぐり頭のやんちゃな子ども時代でした。

高学年になると野球少年で、放課後の練習が待ち遠しくて仕方ありませんでした。授業が終わると、みんなで一斉にグラウンドに出てキャッチボールです。当時の指導者は（故）速水卓雄先生でした。厳しいノックを受け、時には叱られバットで叩かれながらも、うま

くなろうと一生懸命汗を流し、球を追いかけていた懐かしい日々が思い出されます。

道は砂ぼこり舞う砂利道で、道端の畑にはトマト、イチゴ、ウリ、スイカ。木には柿やびわ、イチジク、グミなど何でもありました。それらをこっそり拝借したり、道に絵を描いたり、人様の家の周りや庭を探索したりしてよく叱られました。それでも帰りぎわにはいつも「気をつけて帰りや。」と言ってもらいました。

時は過ぎ、今では子ども達は見守り隊の皆様に見守られ、道草を食うこともせず、安全に下校しています。帰り道の様子はだいぶ様変わりしましたが、昔も今も変わらないもの、それは地域の人達の温かさです。そういった子ども達を支え守り育てる地域性を今後大切にしていきたいです。我が家の孫達も自然豊かで人情味あふれるこの地で、伸び伸びとたくましく育ってほしいと願っています。

ところで、「とぼもん」の私はJA一筋。皆様に支えられ四十五年目を迎えることができました。

自然環境を守り、農業を守り育て、住みよい農村社会を創造するJ Aの使命を思った時、私の原点は鳥羽谷だったと改めて確信すること

ができました。

いつまでも、のこしたい、守りたい ふるさと鳥羽谷
(若狭町無患 在住)



鳥羽川の流れに

感謝、感謝

平谷 貞樹

(昭和43年度卒)

平成二五年に台風一八号が若狭町を襲い、大変な被害に遭われた集落へのボランティアに参加させていただいた御縁から、歴史ある鳥羽小学校同窓会の「会報」で、当時の想い出に触れさせていた

に向かうのが、当時の自分にはとても大きな冒険で、分校から国鉄バス停留所付近までの「麻生野川」の流れは、とても穏やかなものでした。

同封頂いた最近の「会報」を拝見しますと、懐かしい麻生野分校の様子や小学校四年生当時に新築された旧校舎の改修工事の歩みなど、どれも心に響きます。

バス停付近から三生野集落付近までの「麻生野川」には、大きな落差が三カ所所あったように記憶していますが、次第に大きくなつていく川の落差を順に征服していくことが大きな楽しみでした。

当時の想い出では、確か校歌にもあった「鳥羽の谷川」が大好きなものでした。

三生野集落付近の「鳥羽川」との合流地点では、上流の海士坂集落や、無患、三田、黒田（現在は上黒田）集落の方には、どんな流れが待っているのだろうと想像するだけでワクワクしたことを思い出します。遊び相手の蛙や亀の姿も次第に大きくなり、時間を忘れる日々でした。

鳥羽小学校の旧々校舎の一角にあった鳥羽保育所の頃から、麻生野分校へ通学する頃までの遊びの中心は集落内を流れる「麻生野川」で、「鳥羽川」へ合流する三生野集落付近までの川遊びでした。

集落内では、分校の真下を流れる小川の大きな土管を潜って下流

川遊びを終えて集落に戻る頃には体も冷え切り、その疲れを癒してくれるのは、我が集落のランド

マークとも言える「バス停」の屋上でした。コンクリート製のバス停は屋根が優しく傾斜しており、鉄棒の手摺をよじ登ると、太陽に暖められた屋根全体が「足湯」の如く冷えた体を温めてくれます。遊び仲間の同級生と日暮れまで寝ころびました。

鳥羽小学校の本校へ通うようになると、自転車が行動範囲を拡大してくれま

その後の自転車や徒歩による「鳥羽川」下りは僅か一年程度でしたが、それでもほぼ直線の流れは三生野から無患、黒田、三田集落へと続き、景色が大きく変化するのは、JRの「無患トンネル」（地図で調べると「天狗山トンネル」という名前でした。）と鉄橋付近です。トンネルから真っ黒な煙を吐き出しながら猛スピードで飛び出してくる蒸気機関車の雄姿は、大きな未来を感じさせてくれました。北陸新幹線の県内延伸を待ち望む、今日の姿にダブります。

そして、ここからの「鳥羽川」は、大河の如く流れもゆつたりとしたものとなり、大鳥羽、長江、持田や小原、南、山内（当時、朝霧集落はありませんでした。ゴメンナサイ！）の各集落の営みを支え、瓜生地区を経て北川へと注ぎます。遊び相手は、蛙や亀から（あまり遊んでもらえませんでした。たが）鯉やナマズの大物へと変化していきます。

「鳥羽川」の川遊びが一年程度で終わるのも、小学校四年生頃から始まった町内対抗の軟式野球や陸上記録会の練習が本格化したことがありました。が、「鳥羽川」に育ててもらった鳥羽小魂を全面に掲げ、町内の仲間と競い合った頃が懐かしく思い出されます。小学校四年生の記録会で思いがけず新記録を樹立できたことや、軟式野球大会でバッテリーを組んでいた同級生が、目の覚めるようなレフトオーバーのホームランを放ってピンチを救ってくれたことなどが、今でも大切な想い出です。

夏の暑い日には、自転車で海士坂の坂道を駆け上がり、「田鳥トンネル」を抜けると心地よい潮風が迎えてくれました。自転車を乗り捨て、山道を一気に駆け下りて貝採り中心の海水浴も楽しみのひとつでした。

二〇歳で若狭町を離れ、福井市に住み三十七年が経過しましたが、年に数回の帰省では上中IC（仮称らしいです）が次第に立派な姿を見せてくれます。

一年間仕事でお世話になった越前市では、コウノトリのエッチャの話題が里山整備の中心ですが、鳥羽小学校の先輩による鳥羽谷のコウノトリ記事を、新聞紙上で誇らしく拝読させていただいております。

鳥羽川の流れよ永遠に！感謝、感謝です。

あらためて鳥羽小学校の益々のご発展を心よりお祈り申しあげます。

(福井市 在住)



時の流れ

山田 嘉津美

(昭和44年度卒 旧姓 宇野)

私は山内に生まれて鳥羽小学校に通いました。原稿依頼で小学校の頃を懐かしく思い出すことが出来ました。小学校までは遠く、ガタガタ道を歩いて通いました。道草も沢山しました。

去年は大きな台風が来て鳥羽地区のみなさんも被害を受けられた方も沢山おられると思います。心からお見舞い申し上げます。「山内の下の田んぼも湖やったでー」と聞きました。五六年生きてきましたが、身近で大きな被害を見たのは初めての事だと思えます。

小学校の頃は、冬は沢山雪が降り積もり、手で雪のけをしてもらいながら学校に行き、薪ストーブだったのでたき付けを持って行きました。親が背中に野菜を背負って学校に行ったと思います。寒い朝は雪が凍って雪の上を歩いて近道して行くことがうれしかったです。夏は台風が来ると、田んぼの稲が水につかったり、いなぎが流されたりして小さいながら手伝い

をしたものです。五、六年生になると一泊二日で臨海学校に行けることがうれしいものでした。

山内から三宅にお嫁に来て三三年あまり、四人の子どもにも恵まれ、小さい時は実家の母や兄夫婦や山内の方々にもお世話になり、お陰様でみんな素直に大きくなりました。私も仕事を続ける事ができました。今はそれぞれの道を歩んで行ってくれています。お盆やお正月には山内に行くことをみんな楽しみにしています。2人子どもが結婚して3人の孫にも恵まれて「バーバ、バーバ」と言ってくつついて来てくれます。うれしい事です。

今まではバタバタ忙しい毎日でしたが、今は少し余裕が出来てきた今日この頃です。仕事も楽しく頑張っています。家族がみんな健康で居られる事がとても喜ばしい事です。今悲しい事は90才になる母が、今まで頑張ってきたのに痴呆も進み兄弟夫婦にお世話になって

いることです。今年のお正月もみんな山内に行き、楽しい時間を過ごしました。帰る時に子どもたちがベッドで寝ている母を見て、「バーちゃん元気で良かったですねー」と言ってくれました。

た。みんなからのお願いです。山内のお父さん、お母さん、お婆ちゃん命のあるかぎり、お世話になります。

(若狭町三宅 在住)



就職後の私

澤田 将樹

(昭和57年度卒)

私は現在、滋賀県に住み、大津家庭裁判所で書記官として勤務しています。

私は鳥羽谷の南区で生まれ育ったのですが、その鳥羽谷を離れることになったのは、高校を卒業した平成元年に、現在も勤務する裁判所に就職した時でした。

高校時代は卒業したら大学に進学するだろうなと漠然と考えていましたが、現実には厳しく、高校三年生のときに経済的な問題や成績

の低下などでやはり進学は難しいと思い就職する道を選びました。

裁判所事務官として就職できたものの、やはり周りは高学歴の人達ばかりで高卒の私はとても肩身の狭い思いをしました。でも、裁判所という組織は努力さえすれば内部試験に合格して書記官になることができ、同じ書記官同士なら

他の高学歴の人達と同じ処遇が受けられ、そのおかげで当初あった学歴コンプレックスもあまり気にならなくなりました。

就職してすぐの頃はそれこそ毎月二、三回は実家に帰っていました。結婚を機に次第に家庭で費やす時間が増え、すっかり滋賀県の暮らしにも慣れてしまい、鳥羽谷のことを思い出すことが少なくなっていました。

しかし、一〇年程前のある日、テレビを見ていたときに、「無悪(さかなし)」の線路脇の踏切の映像が流れ、「この町に悪い人はいない」といったようなことがナレーションされていたJRのCOMASHALを見掛け、懐かしさを感じるとともに本当に悪い人なんていなかったなあと感じたことがありました。

また、二年程前のある日、当時勤務していた滋賀県高島市の裁判所にある施設関係者の方から問い合わせがあり電話でしばらく話をしていました。一通り説明を終え電話を切ろうとしたときに、その施設関係者の方から名前を聞かれましたので「澤田と言います。」と答えたところ、間髪入れずにその方から「やっぱり将樹ちゃんかあ!」と言われました。私は一瞬、えっと思ったのですが、実家の隣の方がその施設で勤務されていることを噂で聞いていたのと、声が似ているなと思いながら話していたので、私もすぐにその人だと分かり、「やっぱり〇〇ちゃんけえ」と思わず上中弁で返してしまいました。その後、私もその人も仕事中心なのであまり長くは話せませんでした。電話を切ったからじゅんと懐かしさがこみ上げてきました。

今の私は家庭では子ども達のお

父さんですし、職場では部下のいる上司としてそれなりの立場にあるのですが、生まれ育った地元の人達にとっては未だに「うきさん（我が実家の屋号）の僕」のままなんやなあとても感慨深く感じました。

そんな出来事が端緒となってやはり私は上中町民であり、鳥羽谷出身者であることを強く自覚することとなりました。

裁判所には日本全国様々な出身地の人達がおり、どここの出身かという話をするのがよくあります。私はそのような質問を受けたとき、敢えて「福井県」という枕詞を付けずに、迷わず自信を持って「上中町です。」と答えています。

PS. もしも、タイムマシンが存在するならば、一度だけでいいので、ここまで育ててくれた祖父母の笑顔を見に行きたいです。

（滋賀県大津市 在住）



変わりゆくものと 変わらないもの

藤 澤 愛 加

（平成8年度卒 旧姓 小川）

昨年一〇月、法事のために帰省した私は、大きく変わろうとしている鳥羽谷の風景に大変驚きまし

た。これまで鳥羽川を挟んで左右遠くまで見えたはずの集落が見えず、そこには大きな高速道路がそ

びえたつています。さらに海士坂の方に行くと、大きく崩れた山肌が見えます。先の台風により甚大な被害を受けたということは、全国ニュースでも報じられていて知っていました。実際にするとそれは想像を超えたもので、自然の脅威を目の当たりにするとともに、被害にあわれた方々のことを考えると大変心苦しくなりました。

思えば、私が幼い頃の様子とは違うところがたくさんあります。私がつ通っていた鳥羽保育所は当の昔に姿を変え、その裏山には獣害対策の金網が張り巡らされています。園児の頃は、その裏山に登って木の実を拾ったり、鉄塔までかけっこをして遊んだりするのが毎日の楽しみでしたが、今は山に入ることもできません。小学校もきれいな校舎に生まれ変わり、設備の整った素晴らしい校舎になっていると聞いています。

たった数年の間に、小さな村も時代の流れの中でよりよい方向へと変わろうとしていること、また近年の異常気象・自然の変化に対応し変えていかなくてはならないところとの中で壊れてしまうものもあるということをしみじみと感じ、懐かしさや寂しさ、怖さなど様々な感情が押し寄せてきます。

そんなことを考えていた時、

親戚の小学生との会話の中で、今の小学校の様子を聞く場面がありました。「休み時間どんな遊びしてるん?」「仲のいい子は、おるん?」「そんなたわいもない話の中で、その小学生が一言。「仲よしの子はおるけど、誰と仲いいとか悪いとかそんなんは言うたらあかんのやで。もうみんな知り合いやし、みんな仲いいからみんなで遊ぶで。」と。それを聞いて、目を丸くする主人でしたが、私は「あゝ変わってないところもあるのかな。」と嬉しくなりました。

私が小学生の時もそうでした。クラスの人数はたったの二十一人。全校生徒合わせても一二〇人前後の小さな学校。全員が顔見知りです。そりゃ、クラスの中には多少のウマが合う子合わない子はいたものの、休み時間になればみんなで体育館や外に出て、鬼ごっこや合戦など体を思いっきり動かして遊びました。そこには学年の枠もなく、「いれて」の一言で自然に輪に入り、色々な学年の子が混じって遊んだ記憶があります。

学年を超えた交流は遊びの中だけではなく、登下校、そうじ、ランチルームでの昼食、縦割り班で遊ぶ鳥羽つ子タイム、運動会などの行事、そして授業：思い出したらきりが無い程ありました。今思うと、これらの学校



生活・学習はとても素晴らしい経験だったと思います。上級生と下級生が助け合い、その過程で、自然に多くの知恵をつけ、相手を思いやる気持ち、責任感、人と関わることの楽しさなどいろいろなものを身につけていきまされた。これは、鳥羽だからこそできた経験であり、ありがたい気持ちでいっぱいです。

現在の小学校では、教育内容や時間も変わり、私たちの頃とは違う部分もたくさんあるでしょうが、小さい学校ならではの良さや鳥羽っ子の温かさ、つながりのようなものは残っていて、今でも変わらない子どもたちの姿があるのかなと思うと嬉しく、またそれはこれからの大切に残していったほしいものだと思います。

(大阪府高槻市 在住)

学校の近況

【学年別児童数】

	男子	女子	計
1 年	11	8	19
2 年	7	8	15
3 年	7	7	14
4 年	8	9	17
5 年	16	13	29
6 年	10	8	18
計	59	53	112

【集落別児童数】

	男子	女子	計
大鳥羽	9	8	17
上黒田	5	2	7
麻生野	4	2	6
海士坂	3	3	6
三生野	2	1	3
無 悪	1	5	6
三 田	4	1	5
小 原	6	9	15
南	5	4	9
山 内	9	3	12
持 田	1	3	4
長 江	2	3	5
朝 霧	8	9	17
計	59	53	112

【平成25年度 教育目標】

自分の良さを知り 自分を高めよう

- ・自分から進んで学ぶ子の育成
- ・自分も友だちも大切にする子の育成
- ・体力づくり・健康づくりに取り組む子の育成

【主な行事】

4 月	入学式・始業式・集落児童会・身体計測・PTA総会・全国学力調査・敬老会
5 月	春季遠足・内科検診・PTA奉仕作業・鳥羽リンピック・交通安全教室・歯科検診
6 月	プール清掃・前期校内研究会・プール開き・地域学校協議会・民生委員と語る会
7 月	教育懇談会・PTA研修会・終業式・自然教室
8 月	
9 月	PTA奉仕作業・始業式
10 月	町小学校陸上記録会・就学時健診・後期校内研究会・修学旅行・校内マラソン大会・秋季遠足
11 月	町小中学校音楽会・地域学校協議会・国語科授業研究会（県教委指定）・避難訓練
12 月	運動発表会・人権集会・町県学力調査・教育懇談会・教育講演会・終業式
1 月	始業式・学校給食週間・鳥羽っ子学習発表会
2 月	スキー教室・スケート教室・地域学校協議会
3 月	6年生を送る会・卒業証書授与式・修了式

【職員構成】（平成25年 4 月現在）

職 名	校 長	教 頭	教 諭	養護教諭	講 師	事務員	支援員	調理員	校務員	合 計	合 計
男	1	1	3	0	1	0	0	0	0	6	17
女	0	0	5	1	1	1	1	1	1	11	

平成25年度 鳥羽小学校同窓会決算書

平成26年 3 月 4 日現在見込み

＜収入の部＞

(単位：円)

	25年度予算額	25年度決算額	比較増減	備 考
会 費	422,000	423,000	1,000	1,000円×423戸
協力金	8,400	8,400	0	職員700円×12人
寄付金	0	0	0	
雑収入	30	30	0	利子他
繰越金	88,700	88,700	0	
合 計	519,130	520,130	1,000	

＜支出の部＞

(単位：円)

	25年度予算額	25年度決算額	比較増減	備 考
会議費	25,000	21,176	△3,824	役員会、理事会、編集委員会
事務費	50,000	44,556	△5,444	印刷インク、マスター用紙、郵送料等
事業費	435,000	362,750	△72,250	
会 報	135,000	101,680	△33,320	同窓会報第23号原稿等送料
教育振興	300,000	261,070	△38,930	児童図書等、スキー教室補助、印刷機
予備費	9,130	5,000	△4,130	
合 計	519,130	433,482	△85,648	

平成25年度 鳥羽小学校同窓会役員名簿

役 員	集 落	氏 名
会 長	三 田	岡 本 嘉 樹
副会長	上黒田	澤 本 啓 一
”	南	滝 本 和 江
顧 問	三 田	小 林 銀右工門
”	無 悪	兼 松 勉
”	三 田	福 谷 洋
”	大鳥羽	松 宮 保 彦
”	校 長	高 橋 繁 応

役 員	集 落	氏 名
幹 事	麻生野	三 宅 繁 樹
”	三生野	畑 中 泰 信
”	無 悪	竹 内 一 善
”	南	東 弥千代
”	長 江	谷 口 文 代
監 事	持 田	竹 内 収 平
”	大鳥羽	檜 鼻 ふじよ
事務局	教 頭	田 中 孝 明

役 員	集 落	氏 名
理 事	大鳥羽	武 田 佳 子
”	”	松 宮 昌 弘
”	上黒田	溝 口 尚 美
”	”	山 崎 文 裕
”	麻生野	原 田 太 輔
”	”	谷 口 慎 悟
”	海土坂	中 村 浩 樹
”	”	池 田 貴 一
”	三生野	畠 中 雅 宏
”	”	西 川 英 之
”	無 悪	竹 内 正
”	”	玉 井 克 幸

役 員	集 落	氏 名
理 事	三 田	佐 野 久 男
”	”	深 水 滋
”	小 原	山 本 明 志
”	”	森 北 良 嗣
”	南	南 谷 知 宏
”	”	滝 本 義 浩
”	山 内	宇 野 幸 一
”	”	寺 西 浩 子
”	長 江	武 田 修 治
”	”	武 田 佳代子
”	持 田	大 下 宗一郎
”	”	三 宅 照 彦
”	朝 霧	檜 鼻 壯 栄

編集後記

今回も無事、本会報を発行することができました。御寄稿くださった会員の皆様、ありがとうございました。皆様の原稿から溢れ出る、母校、恩師や同窓生、そして故郷鳥羽谷への深い想いに胸が熱くなりました。

それにしても、ふと素朴な疑問が湧いてきました。なぜ母校を同じくすることが、「同校」ではなく「同窓」なのだろうと。

調べてみると、「窓」には「勉強する所」の意味がありました。中国、晋の時代に、ある青年が窓辺で雪明りを頼りに勉強に励んだという故事に由来するようです。「同校」に気品と深み加わると「同窓」になるような気がしてきました。

母校の子供たちが、「窓」から外界の未知なるものを大いに学び、しっかりと未来を見つめてくれることを願います。

そして会員の皆様におかれましては、今後とも外界から「窓」の中を覗いていただき、懐かしい思い出、近況、御意見などをお寄せください。お待ちしております。

(澤本記)

鳥羽谷で育む、心豊かな鳥羽の子



鳥羽地区敬老会



春の遠足



プール学習



自然教室



鳥羽オリンピック



芸術鑑賞



山内カブラ収穫



コウノトリ米の田植え



修学旅行



マラソン大会



町小中学校音楽会



運動発表会



鳥羽っ子学習発表会



5・6年スキー教室



3・4年スケート教室